

改訂の序

2011年（平成23年）に，“初心者の目線でみたわかりやすい心電図の入門書”をコンセプトにして、『そうだったのか！絶対読める心電図～目でみてわかる緊急度と判読のポイント～』を羊土社から発行した。それから、はや15年が経過した。本書の特徴としては、学問的な事柄は心電図を理解するうえで必要なことのみにとどめ、診療においてこれだけは知っていてほしい内容のみを統一した形式で記載した書籍であった。それが功を奏したのか、若手の医師、看護師、検査技師、そして学生の皆さんに書店で本書を手にとっていただき、購買数を大きく延ばすことができた。本書は海外でも人気があったようで、韓国でもリリースされた。

しかしながら、15年も経過すると、心電図に関する用語の使い方や注目される不整脈や疾患なども少し変化してきた。そこで、羊土社と相談して、前書のコンセプト、および重要な事柄はそのまま踏襲することとし、ページ数は抑えたまま、部分的な修正と新たな項目を加えた改訂版を発行することにした。見本となる典型的な心電図についても一部の不整脈・疾患でより良い画像に変更した。加えて、本書の価格も何とか前書と大きく変わらないように配慮していただいた。

是非、改訂した本書を活用していただき、心電図を自ら記録して読むことが益々好きになっていただければと願っている。

2025年12月

東邦大学 教授
池田隆徳

初版の序

「心電図について解説した手軽ないい本はありますか？」という質問をよく受ける。医学生やレジデントからが多いが、臨床の第一線で働いている一般内科医からのこともある。医学書を取り扱っている書店に足を運ぶと、数多くの心電図に関する書籍が所狭しと並べられている。いくつかの書籍を手にとって開いてみると、心電図を学問としてとらえ理論的に詳しく解説した書籍もあれば、心電図波形を数多く載せてその読み方をきめ細かく解説をした書籍などさまざまである。同じような企画で出版された書籍を比べてみると、不思議なことに書かれている内容が執筆者によって異なることに気づく。それは波形の解釈から不整脈の診断まで多岐にわたる。不整脈の分類のしかた一つにしても、一定の型にはまった記述がされておらず、初心者にとってはどのように解釈したらよいのか戸惑ってしまうかもしれない。加えて、まれな現象に重点を置いて記載していることがよくあり、心電図の理解を一層難しくしているように思われる。

そこで、このような問題点や不安を払拭すべく、初心者の目線でみた分かりやすい心電図の入門書を発行することを羊土社と企画した。専門医の間で一定の見解が得られていないような事柄はすべて除き、また学問的な事柄は心電図を理解するうえで必要なことのみにとどめ、診療するうえでこれだけは知っていてほしい内容のみを記載することにした。書き出しとして、まずは心臓の仕組みと電気の流れ方を説明し、心電図のとり方の基本から解説することにした。そのうえで心電図の読み方を解説した。理解が難しいとされる不整脈については、心電図に加えて心臓内で起こる電氣的異常をシェーマで併せて示し、エコーや内視鏡と同じように視覚的にも理解できるように工夫した。心電図異常を示す疾患・症候群については、典型的な心電図のみを載せることにした。また、専門用語はすべて日本語で記載し、頻用されることが多い英字略語については併記することにした。加えて、持ち運びやすいように書籍の大きさをA5版とし、価格も低く抑えていただいた。このようにして、時代のニーズに合った心電図の本ができ上がったと思っている。

本書を活用することで心電図に対するアレルギーがなくなり、心電図を自ら記録して読むことが好きになるきっかけにいただければ、企画した者として本望である。

2011年6月

東邦大学 教授
池田隆徳